

第2回 広陵町政策推進審議会 議事要旨

I 開催日時 令和7年12月23日（火） 午後3時00分から午後5時00分まで

II 開催場所 広陵町役場3階 大会議室

III 出席者

<委員>8人（欠席4人）

窪田会長、岡野委員、杉本（洋）委員、杉本（雅）委員、辻委員、藤山委員、藤田委員、松村委員

<事務局>5人

企画総務部 藤井部長

総合政策課 芝課長、岡崎、河井

フォーティエンスコンサルティング株式会社 高橋

IV 次第

1 開会

2 会長あいさつ

3 議事

(1) 第5次広陵町総合計画中期基本計画素案について

（人口ビジョン、重点プロジェクト、分野別計画編の改訂等）

(2) パブリックコメントの実施概要について

4 その他

5 閉会

<配布資料>

資料 1：第5次広陵町総合計画中期基本計画素案

資料 2：パブリックコメントの実施概要について

参考資料：第3次広陵町人口ビジョン（案）

当日配布資料1：ワークショップの実施概要について

当日配布資料2：広陵町人口ビジョンの改訂について

V 議事内容

1 開会

2 会長あいさつ

冬至を過ぎたものの暖かい日となっていますが、皆様忙しい日々をお過ごしのところ、ご参集いただきありがとうございます。広陵町総合計画中期基本計画は、ここにいらっしゃる全ての皆様の力を合わせて急ピッチで進めています。この会を進

めている中でも、世の中の変化はすごく進んでいます。首相も変わり、奈良県から高市首相が誕生しました。また、新しい技術の進展もすさまじく、様々な分野でAIが活用されるようになっていきます。私事ですが、大学の研究論文などを提出する際には、AIをどこにどう使ったのかを明記することになっています。新しい動きがある中、未来を捉えて新たな雇用につながるような取組が生まれるような計画を作っていくこと、また、パブリックコメントを行い地域の声を聞いていくことも大事です。

今回、各部会で取り組んでいただいた内容を踏まえた中間案を皆様にご検討いただきます。その後約1か月のスケジュールでパブリックコメントを行いますので、今回はとても重要な会と認識しております。部会でご議論いただいているところかと思いますが、改めて内容確認の上、ご質問等いただいて、良い案にしていきたいと思っております。本日も司会進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

3 議事

(1)第5次広陵町総合計画中期基本計画素案について①

○事務局から第5次広陵町総合計画中期基本計画素案第1章から第3章まで（資料1）、広陵町人口ビジョンの改訂（当日配布資料2）について説明

【資料・説明を踏まえた質疑応答】

（A委員）

この人口ビジョン自体は部会の方で承認されていることである。私たちのこの政策推進審議会にも非常に関係してくるものなので、この際に知っておいていただきたい。いくつか考えられることは、今、新しい住宅地がたくさんできており、転入してきた住民の子どもたちは、20年後から30年後ぐらいにはどうなるのか。結婚しそこから出ていくのか、出ていかずに引き続き住むのか。町としては、20～30年後ぐらいに今の子どもたちの代になっていくと人口が大きく減って、そこを補う方策を考える必要があるが、当分は今いる子どもたちが健やかに育っていくということが課題になっていて、本審議会は、その先のことを中心に考える場であると認識している。その後、高齢化が進んだ際にどのように対応するかが広陵町の先の問題となる。もっと早くに大きく人口が減るような地域、高齢者のみ又は単身高齢者が主で、その住民が減っていく地域が、日本全体で見るとますます増えていく。広陵町のような、都市やその周辺に人口が集まって、そうではない地域で人口が激減していく状況下で、そうした人口が減少している地域としては、この状況を助けて欲しいと考えるはずである。広陵町などの都市近郊地域に住みながら日本全国の厳しい地域の支援をしてもらわないと、日本全体が回っていかないのではないかと。当面

の間は、広陵町としては様々な努力をして、なんとかこの3万人を政策の工夫によりキープしつつ、奈良県の中でも南部など、人口が大きく減っていくところの状況を見ながら支援していくと、人口が減っていく地域ではどんな対応をされているのかいうことを学ぶ機会になる。いろいろご意見をいただきたい。

(E 委員)

今後のまちづくり考える時の原点は「現状はどうなのかというのをリアルに見つめるってこと」がすごく大事だと思う。現状の中でどういう課題があるのか考える必要がある。日本は地震火山列島なので、日本人としてまちのことを考えるときに、災害という問題を横に置いて考えることは不可能だと思うし、政策をたくさん行っても、いざ大きな災害が起こった時に対応が不十分であれば、全ての生活基盤が失われる。そういう観点で、私はこれからの日本は、防災・減災という取組に対して、もう少し深刻に考える必要があり、猶予はあまりないという基本的考えを持っている。その基本を踏まえてこの文章について申し上げると、広陵町は災害に強いまちですかと聞かれたら、大きな疑問がある。全国共通の課題でもあるし、広陵町特異の課題でもあるが、いざ災害が起こった時は、災害対策の指揮や指導の拠点となるのは役場だと思う。役場は災害に強いのかという疑問もある。気象庁の地図では水没地域になっている。建物自身も1回耐震工事しているが、増築して繋ぎ足した建物なので、建築的に一番弱い。その辺のことが全く書かれていないのは問題視している。

二点目は、在来地区が、非常に旧耐震の木造建物が多く、かつ道路も狭小の地域が非常に多い。いざ火災が起こると、消防車が入れない。4.5m未満の通路が41.2%で、4割で消防車が入れない状況。この状況で延焼を止めることはまず不可能だと思う。また、新耐震以前の建物なため倒壊は免れない。それに対して狭小道路の解消に努めるということで、令和11年に現状値41.2%から40.0%とすると書いてあるが、このペースで良いのかということが一つ、また、このペースすら難しいのではないかと懸念している。この10年間、狭小化道路の解消は進んだのか。すごく不安がある。

三点目は、災害の時、一番大事なのはライフラインの確保になる。下水道インフラは老朽化が著しく、もう既に耐用年数を過ぎているものが広陵町では恐らく7割か8割になっているのではないかと思う。6年ぐらい前に聞いた時には45年かかりますとのことだった。となると、この広陵町が災害や防災に強い優れたまちなのか、減災化は進んでいるのかということについては、あまりそうも思えない。町の課題の中の非常に重要な部分で、現状は災害に強い場所とは言えないと考えている。防災や減災に努力しないと命が奪われることもあるので、そのためにこうしま

しょうということが、もう少し強調されないと分からない。問題意識がはっきりしないという印象を受けた。

(事務局)

建物の老朽化と道路の改良、下水道インフラ等の老朽化についてご質問いただいた、前期基本計画の時には、まちづくりの観点について大きく着目していなかった。そこで今回、新たに現況分析に土地利用の方向性ということで、都市計画マスタープランなど広陵町の面的整備の方向性や内容を記載させていただいた。まちづくりでの防災や災害対策というものは非常に密接な関係があるので、まちづくりの観点を総合計画にしっかり盛り込むことで、それぞれの事業が現実味を増していくと考えている。また、総合計画における施策に、防災減災対策等の文言を記載させていただいている。前段の重点プロジェクトは、福祉事業や地域経済活性化について、プロジェクトのメインにするものなので、総合計画の方で適切に対応させていただくということでご理解いただければと思っている。

(C委員)

本町は高齢化が進んでいき、高齢者がここに残り、若い人たちは出ていくイメージ。やはり魅力的なまちづくりをしていると、子どもたちが残ってくれる、一度出てもまた帰ってくる、そういうまちにしたいと思う。これからもずっと町が楽しい、ワクワクするような町にしていくような町づくりをしたい。防災については、先日、御所市にある拠点 Mimoro (ミモーロ) を見学してきた。あるだけで安心だと思った。先ほど事務局の説明で、基本構想のところで町の将来像の一番下にある黄色で書いてある「be Happy」のところだが、なぜ「be」は小文字なのか。一般的にタイトルは大文字で目立たせるためにあり、ここから始まりましたということである。また何でも英語を使ったら格好良いみたいな発想になっていないかと思った。日本語でも言えるのではと思った。サブタイトルのつながりもよく分からない部分もある。

(事務局)

魅力あるまちづくりについてという大きな話題があったが、今回、いわゆる未来を担っていただく若者世代にアプローチしていきたいという意図と町長のマニフェストでも住民対話を掲げられていることもあり、住民ワークショップの機会を非常に多く設けさせていただいた。前期基本計画の時にはワークショップを取り入れなかったが、今回は取り入れ、大学生、高校生、中学生のそれぞれと意見交換・ディスカッションをさせていただいた。この中で、大学生、高校生、中学生とも、やはり広陵町自身は魅力のあるまちであると思っていただいております、将来、広陵町で暮らしたいという回答が多かった。ただし、大学生の中には、町歩きのワーク等を

された方がおられ、真美ヶ丘ニュータウンと在来地区では、まちづくりのコンセプトが明らかに違うので、在来地区においては道路をもう少し整備しないと、人流や人の交わりは生まれないのではないかというような意見もあった。高校生は、もっと具体的で通学をするのに歩道を作って欲しい、電気をもう少し明るくして欲しいなど、自身の通学に関わる部分を重視して欲しいとのことだった。中学生は、本町の魅力について、自分たちが広陵町から出た時に、広陵町が誇れるような、PRできるようなこともしっかりやって欲しい、公園や靴下など、本格的にSNSを使って、しっかりアピールして欲しい、という要望があった。そういったところで、比較的若者にも広陵町を支持いただいているということが分かった。

また、町の将来像の「be Happy」について、これは職員ワークショップで、職員の中から未来に向けてどういうまちづくりをするのが良いか、そして次の12年間を自分たちがどういうまちづくりしていきたいのかっていうことでワークショップを実施したところ、文章的に、主体の方がおられて、その方たちがいろんなことをすることで幸せになっていくという考えで、「be Happy」と小文字を用いて文章的に表現して、いろいろな読み方ができるようにということだった。色味については、やはり広陵町はひまわりのまちということで、ひまわりの黄色をメインに、それと丘陵地の緑の2色を軸として、町がこれから未来につながっていく、町を支えていくという思いを込められたものである。

(A委員)

子育ての件に関しては、良い政策をして留まってもらえる、選んでもらえるということだが、実際に住んでもらえるような宅地、住宅を用意する、あるいは同居が良いという文化を作るなど大事。

(H委員)

同居したいという人もいるが、今の家の構造は、親との同居はできない構造になっている。今の世代で3世代同居というようなことも考えても良いと思う。

(B委員)

防災計画の話は非常に重要な問題だと思っている。命を守るというのは基本だと思うので、人の命を守れるまちということが、最初に来る課題であると思う。私はB部会で、地域福祉や高齢者福祉などがメインになる部会に属している。気になっていたのが医療の緊急医療体制というところで、町内に大きな病院がない、休日診療が行われていない、緊急の時にはどうやって、どこに搬送されているのかなどの課題である。その部分についてのアンケートが令和8年度から行われると言うことで、防災や医療、命の根幹に関わる部分を最初に議論すべきだと思う。B部会は構造面ではなく機能面のことを議論してきた。その内容がどのように実行されていく

のかという構造面については理解していなかった。機能面について議論することの大切さを理解した。事務局の説明に対する疑問点等はない。

(F 委員)

開発できる地域がますます減っていくので、家は確かに飽和状態かなと感じている。空き家を利用しながら、新しい方に来ていただいているようなことができればと感じている。また、まちづくりが計画的に進められている真美ヶ丘と比べて、在来地域の古い地域では、小さな細い道がたくさんある。その中が空洞化、ドーナツ化して、空き家が増えていっているというのが正直なところである。空き家をうまく活用できるような雰囲気、体制を作っていたら良いと思う。また、三世代というのは確かになかなか難しい。新しい家が建ったときに、近くに兄弟や子どもが住んでいるといった環境が作れたら望ましいと思う。見えて見えないという関係ができるようなまちづくりになっていたら良いと思う。

(1)第5次広陵町総合計画中期基本計画素案について②

○事務局から第5次広陵町総合計画中期基本計画素案の第4章及び第5章（資料1）について説明

【資料・説明を踏まえた質疑応答】

(G 委員)

大きな方向性としては、英語表記について脚注を加えていただいた方が良いということと、定義等については表現も含めて、国の表現に合わせられた説明があっても良いと思う。まず、54、55ページの重要成果指標にあるBLEタグの意味。続いて113ページの子どもを守る環境づくりの推進の手段の三つ目のヤングケアラーの意味。あとは表現について、123ページの【展開方向1】自助・共助（近助）の推進のところにある「マイタイムライン」について、別の資料だとマイとタイムラインの間に中黒が入っていて、その辺は合わせた方が良いのでは。また、マイタイムラインとは何かという説明はいらぬのか。次に137ページのフレイル。189ページのEBPMやDXについても説明が必要であると思う。

(事務局)

注釈が必要なところは対応するようにする。表記の統一について、あえてその表現にしているわけではないと思うので、確認して変更させていただきたい。

(B 委員)

私の方からはB部会で挙げた指摘事項について確認する。まず114ページの施策3-2「青少年の健全育成」のところで、若者は39歳までという説明があったが、子どもは何歳までで、若者は何歳までというように、どこかに表記しておいても良いのかなと思う。次は119ページの赤字の部分で、「学校給食費の無償化等によ

り、全ての公立小中学校の保護者家計負担を軽減します」のであれば理解できるが、その後の「他の教育費に使える資金を確保できるようにする」というような表現は、プライベートに踏み込み過ぎている表現ではないかというご指摘があったので、これに関しては削除しても良いのではという意見があった。次に 148 ページの施策 4-7 「社会保障の適正運用」だが、言葉として「社会保障の持続可能性」などの表記に変えることはどうかとの提案があった。次に 153 ページの「現役世代を含む幅広い世代が必要となるノウハウを取得できるよう」について、何のノウハウなのかと意見があった。最後に 168 ページで「深刻化する人手不足等を背景に」は、削除されるということか。外国人の立場だったら、日本が人手不足になったから、ここにいるというわけじゃないっていうふうに思われる可能性もあり、この表現は検討した方が良くと思う。

(事務局)

最後の 168 ページの文言は削除する。153 ページのノウハウのところは作業漏れなので対応させていただく。119 ページの給食費のところは事務局でも検討したが、これは町長がマニフェストを掲げられていて、公式な場で給食費を無償化するとの説明をされている場面があり、その際に給食費を他に当てていきたいというような思いがあり、あえて残させていただいたという経緯。今回、審議会でご意見いただいたので、検討させていただくことになる。社会保障の持続可能性についても、変更を検討させていただきたいと思う。

(A 委員)

全体的なことも含めまして、直近ご説明いただいて含めてご意見あるか。指標は細かく見てないが、ちょっと気になる指標として 114 ページにある指標「人の役に立つ人間になりたいと思う」などがある。

(事務局)

指標については、各部会でのご指摘を踏まえて訂正したものになる。114 ページの「人の役に立つ人間になりたいと思う」と答えた小学生・中学生の割合について、担当課としては、引き続き上昇を目指し、学校生活の取組を縮小させないように目指したいということだった。

(A 委員)

これからバブリックコメントを実施し、最終的に決めていくことになる。この指標はたまたま目について発言をしたが、高止まりしているのであれば違う指標を見つけていくというふうに考えて良いとは思う。

申し上げていた予定の時間となった。それではこれを素案として認めて良いか。

(委員一同)

了解。

(2) パブリックコメントの実施概要について

○事務局からパブリックコメントの実施概要（資料2）について説明

（A 委員）

いま事務局が説明したパブリックコメントの実施概要を認めてよろしいか。

（委員一同）

了解。

（A 委員）

承認とさせていただきます、ただいま事務局から提案があったとおり本日のご意見等を反映した公表資料の承認については、私に一任いただくこととさせていただきますこととする。

4 その他（次回スケジュール等）

- ・議事要旨及び資料の公表について
- ・次回以降の日程について（2月上旬を予定）
- ・行政評価に係る部会について（1月中又は2月中旬以降に実施予定）

5 閉会

（以上）